

今こそ、いのちとくらしを守ることを 最優先にした市政に！

堺社会保障推進協議会
堺市本庁キャラバン



自治体は市民を守る防波堤に

コロナ禍3年目となるキャラバンは、昨年引き続き時間と人数制限を設け、各団体・分野から出された要望内容を絞り込んだの懇談となりました。キャラバンは、3年間休むことなく実施しています。

キャラバンでは、「長引く新型コロナ感染拡大で、医療・介護・福祉の現場がさらに厳しくなっている中、財政危機を口実にした市民サービスの切り捨てはやめ、こうした大変な時こそ、自治体（堺市）は市民のいのちとくらしを守る防波堤に

なるべきだ」と、あらためて訴えました。

各分野から切実な声をぶつける

この間、マスコミでも広く取り上げられている障がい分野からは、「予算を超えたということでは」「検査キット不足の解消、感染された利用者さんの入院・療養場所を堺市として設けてほしい」など、切実な現場の声を要望しました。

介護保険関連では、同仁会介護事業部のケアマネジャーが参加。新型コロナ禍で、あらたに感染対策などの負荷がかかる中、「介護人材不足」や

「マイナンバーカード取得の続き支援」に伴うケアマネジャーの新たな負担の発生などを訴えました。堺市からは、「担当課としても、そのような情報は知らなかった」との返事もあり、あらためて懇談の必要性を感じました。

またこの間、市民の運動で継続させていた「専門職による『総合事業』の実施・継続」については、「生活保護」では、申請書を出すまでに4時間

ついては、「国の動向、サービス利用状況などをみて、必要に応じて検討する。専門職の継続は100%ではない」と、これまでから大きく後退した回答があり、新たな運動が必要と訴えました。

「国民健康保険」では、他市町村に比べて格段に多い資格証明書発行件数の問題。「子育て」では、就学援助制度の改善とともに、「学校給食無料化を2学期以降も継続してほしい。安心・安全の食材を使ってほしい」と要望。

「生活保護」では、申請書を出すまでに4時間



健診の現場から

胃がんリスク検診(ABC検診)で「胃の健康」をチェックしよう

胃がんは、部位別がん罹患率で男女とも3位（国立がん研究センター、2019）が統計より」といって罹患率の高いがんです。

胃の状態を調べるには、胃カメラ（上部内視鏡検査）とバリウム検査（胃部X線検査）がよく知られています。「胃がんリスク検診（ABC検診）」とは、胃の健康状態（将来的な胃がんリスク）を知る検査です。具体的には、2種類の血液検査で胃粘膜の萎縮度、ピロリ菌感染の有無を確認し、A・B・C・Dで判定する方法です。

よく耳にする「ピロリ菌」は、胃の中だけにすむ細菌で、幼少期（5歳前後）までに感染すると言われています。ピロリ菌は胃粘膜に炎症を起こし、慢性萎縮性胃炎、潰瘍、胃がんが大きくなるかわかることが分かっています。胃がんリスク検診で見直しましょう。

状態を知り、定期的の内視鏡などの検査を受けましょう。早期発見なら、内視鏡で治療も可能です。また、この機会に、胃がんの原因と言われる喫煙や食生活も、合わせて見直しましょう。

「胃がんリスク検診」の総合判定の見方

	A群	B群	C群	D群
ペプシノゲン (PG)	陰性 (-)	陰性 (-)	陽性 (+)	陽性 (+)
ピロリ菌 (HP)	陰性 (-)	陽性 (+)	陽性 (+)	陰性 (-)
胃の状態	正常な胃	正常な胃にピロリ菌が感染している	胃粘膜が炎症をおこし、少しずつ胃が萎縮する	胃粘膜の萎縮が進み、ピロリ菌が胃に棲息できなくなる
胃がん発生リスク	低い	やや高い	高い	非常に高い

特定非営利活動法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構の資料を元に作成

「新連載」に向け、大募集！

健康友の会みみはらは、2024年10月に40周年を迎えます。40周年にむけて、来年2月号から、「40年を振り返り、未来を展望する」連載を開始します。

「友の会で印象に残っていること」「思い出の写真」「友の会とわたし」……など、なんでも結構です。「とも」編集部までお送りください。写真はお返しいたします。

40周年企画のアイデアも大歓迎です。会員の皆さんの友の会への思いをお寄せください。

送り先：〒590-0821
堺市堺区大仙西町6丁184-2
健康友の会みみはら事務局
e-mail: tomo-kenkou@mimihara.or.jp

24年10月に
友の会
40周年